

岡谷市議会 総務委員会 行政視察報告

【総体事項】

1. 視察日程：平成22年7月14日(水)～16日(金)
2. 調査事項（視察先）
 - (1) 放課後子ども教室推進事業について（宮城県黒川郡富谷町）
 - (2) 新仙台市立病院基本構想について（宮城県仙台市）
 - (3) いわき市立保育所における民営化について（福島県いわき市）
 - (4) 三春町立三春病院について（福島県田村郡三春町）
3. 視察参加委員

委員長	田 中 肇
副委員長	鮎 沢 美 知
委 員	高 林 紘 一
委 員	渡 辺 太 郎
委 員	今 井 康 喜
委 員	今 井 秀 実

【視察地毎の報告】

1. 調査事項

放課後子ども教室推進事業について（宮城県黒川郡富谷町）

人口：約47,300人 面積：約49km²

（視察事項）

富谷町は、小学校全7校が6小学校区にあり、各小学校区にある6つの全公民館で放課後子ども教室を開設し、全ての小学校の児童が参加出来る。また、町長・副町長・教育長3人ともに教育者出身であり特筆である。

2. 視察日時 平成22年7月14日（水） 14：30～16：30

3. 参加者所感

- 各公民館活動として、住民の為の様々なメニューを用意し、その活動が放課後子ども教室への大変良い環境づくりになっている。町はその推進のために、予算化・組織作り・人的支援等全体的な環境づくりに取り組んでいた。岡谷市も強力な支援体制を早急に作るべきである。
- 小学校区に1館ある公民館を利用して家に近い場所での活動は、子どもに安心を与え、地域住民の生きがいづくりにもなっていて、実にすばらしいと感じた。岡谷市も公民館や区公会所等を利用して、見直しをすべきと感じた。
- 放課後児童クラブは、高学年も受け入れているが、平成19年の国のガイドラインで受け入れ可能となっているとのことであり、岡谷市の学童クラブも原則申し込み可能とすべきではないかと感じた。
「教育日本一のまち」を目指しているというだけあり、放課後児童クラブのスタッフ（コーディネーター等）の数も子ども教室の数も充実していた。
- 岡谷市のように学校の空き教室でなく、地域の公民館で地域の住民との交流や地域行事への参加、歴史や文化へのふれあいは大変重要だと思われた。
- 岡谷市では、児童館の設置がないので各学校単位になるが、モデル事業として始まった「とちっ子ひろば（川岸小学校）」、「あそぼう日（湊小学校）」、「あやめ基地（田中小学校）」等、各小学校の事業の充実を図ることに期待し、他の地区においても構築できることを願う。
- 岡谷市でも小学校高学年の居場所を確保してほしいとの市民要望を市に要望してきた。岡谷市には公民館が3つしかなく、富谷町のような機能や

活用が出来ない。代わりに区が21あり、それぞれ地域活動の拠点として利用されている。しかし、21区は規模が違い体制も様々である。「あやめ基地」が子どもの居場所づくりのモデルケースになって広がりつつあるが、行政がもっと人的、経費的にも支援をしていかないと地域ボランティアは広がりも持続も困難ではないかと感じている。岡谷市の子どもたちが、安心して健やかに育つ環境整備は大変重要である。

【視察地毎の報告】

1. 調査事項

新仙台市立病院基本構想について（宮城県仙台市）

人口：約1,035,600人 面積：約783km²

(視察事項)

現在の市立病院が、敷地・建物の狭隘化、設備面での老朽化等が問題となり、耐震診断の結果から現病院大規模耐震化工事や現敷地での建て替えは困難であるため、移転・新築が決定した。

平成19年に新仙台市立病院基本構想発表、平成21年に新仙台市立病院基本計画発表、平成22年に新仙台市立病院基本設計発表。現在の一般病床数は501床。

2. 視察日時 平成22年7月15日（木）9：10～10：30

3. 参加者所感

- 医師の充足状況や臨床研修指定病院としての状況は、岡谷市民病院の比ではない。「新しい市立病院のあり方に関する検討委員会」の委員長は東北大学の教授であり、その他の委員にも外部の方々を入れる姿勢に、岡谷市との大きな違いを思う。岡谷市も市内関係者だけでなく、外部から招き（専門家）検討に加わって貰うべきである。
- 計画策定に病院内の関係者の意見を反映させる為の努力と時間を充分取って進めてきている点は重要。岡谷市での進め方でも、大いに参考にすべき。
- 経営理念等は岡谷市民病院と共通するものはあるものの、医療圏人口の多さ、規模の違いを感じた。
- 整備スケジュールで新病院の開院まで充分日数をかけて協議している。市民への説明、パブリックコメント等にも充分な時間をかけている。岡谷市においても協議には充分な時間をかけて欲しい。少なくとも6ヶ月は必要ではないかと感じる。
- 良いものを作るには一定の期間が必要。基本構想のメンバーに、県や関連大学の関係者が入っている事は重要と感じた。

岡谷市は新病院基本構想を今年10月から11月頃に作成する事は決まっているが、他は全く未定。はたして、病院現場の意見集約や市民へのパブリックコメントをしっかりと行い、平成25年度の病院建設は可能なのか、どのような新病院を考えているのか、早く計画を示してほしい。市民総参加のまちづくりを掲げる岡谷市としてしっかりと対応をして欲しい。

【視察地毎の報告】

1. 調査事項

いわき市立保育所における民営化について（福島県いわき市）

人口：約343,400人 面積：約1,231km²

(視察事項)

市立保育所の運営について、施設の老朽化・整備や運営に係る経費が更に増大することを踏まえ、いわき市社会福祉協議会と児童福祉専門部会の答申に基づき民営化を決定した。原則として都市部保育所はすべて民営化として、現状のまま移譲可できる19保育所を4施設ずつ委譲する。最初の民営化は、平成21年度に4保育園を社会福祉法人へ移譲した。

2. 視察日時 平成22年7月15日（木）14：00～16：00

3. 参加者所感

- 民営化して、サービスの充実・施設整備がされ良かったし、お金・人・事業運営等柔軟に即応できるようだ。
- 民営化の効果で①多様な保育ニーズへの柔軟な対応 ②保育環境の向上 ③効率的で安定した運営 ④地域の子育て家庭に対する支援、など保護者の選択対象が広がった。岡谷市でも検討の必要あるのでは。
- 実績を積んでいる民間保育所がいくつもあり、市民に信頼される点など岡谷市とは、かなりの違いがあるように感じた。
- 岡谷市とは、街の状況や保育園の状況の違いはあるが、財政状況の厳しい折でもあり、民営化のメリットが大きければ検討も必要なのかもしれない。

【視察地毎の報告】

1. 調査事項

三春町立三春病院について（福島県田村郡三春町）

人口：約18,300人 面積：約73km²

(視察事項)

三春町では、県が経営不振などを理由に廃止を決定した県立三春病院の存続を求め、平成19年4月から県から町への委譲に合意した。町では病院を公設民営化で運営する事を決め、指定管理者制度により再生を図り同病院の経営は順調に好転しつつある。

指定管理者制度を取り入れ、民間の力を活用したこと。民間並みの建築単価を実現したこと。指定管理者に減価償却費を負担してもらう協定をしたことは特筆される。新病院は平成20年4月完成。一般病床86床。

2. 視察日時 平成22年7月16日（金）9：30～11：30

3. 参加者所感

- 公設民営化は岡谷市と状況が違うが、黒字実績を上げている病院の視察は重要。県との共同での取り組みは病院事業を進める上で大事なポイント。
- 自分の家を建てるのに他人の意見で建てるか。指定管理者は設計の段階から入り、全費用17億円で出来た。修理にお金をかけない無駄のない設計で総額17億円とは思えない立派な物。廊下が広い、トイレの臭いも何もしない。
- 指定管理者による運営は、民間の感覚で保健福祉の連携や住民参加のコミュニティー施設として、病院食材の地元野菜の仕入れなどにより地域に貢献できる病院として期待が持てる。岡谷市でも市民に開かれた病院として、市民と一体となるようなイベント等の企画も必要。
- 運営面での民間の能力を効果的、効率的なサービスで提供が出来る点は素晴らしい。常に町と指定管理者は、怠らずに目標に向けお互いの役割分担をしっかりと協議しなければならないことを強く感じた。
- 県の財政的な支援が大きいと感じた。公設民営化方式が成功しているように思う。開放型病院として、病院の施設や検査機器等を開業医に開放し利用してもらう病院。日当たりを考えたベッドの配置や疲れのないような書体を使った案内版の設置、壁側の上に若干伸ばして巻き込んだ床など、随所に民間ならではのノウハウや工夫が見られた。